

川と共に生きる

第2回国包伝統文化祭

平成28年9月3日、4日

国包けやきの会

国包 (簡易年表)

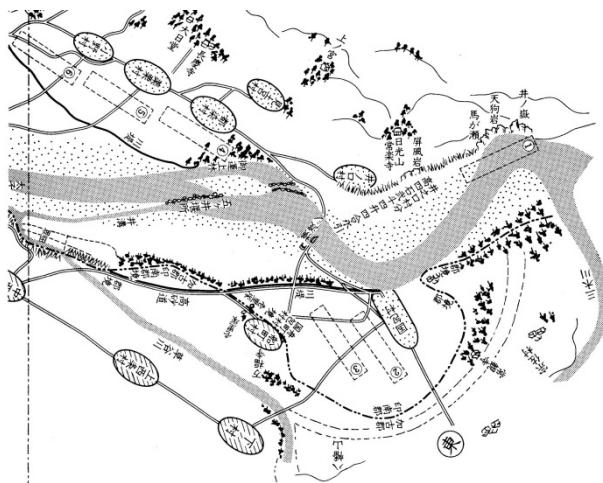
和暦	西暦	できごと	和暦	西暦	できごと
大化元	645	法道仙人、日光山常楽寺をはじめる	昭和33	1958	上莊橋新築工事着工
嘉禄元	1225	加古川の大洪水、国包村全村流失			昭和35年(1960年)竣工
天正 8	1580	玄徳によって教信寺をはじめる	36	1961	上莊小学校国包分校廃止
文禄 3	1594	加古川舟運開く(瀧野一高砂)	37	1962	国包1年生八幡小学校へ
慶長 9	1604	加古川舟運(本郷一高砂)完工	42	1967	国包郵便局新局舎完成(国包より厄神へ)
元文 2	1737	国包村明細帳	44	1969	国包保育園開園
宝暦 6	1756	国包長浜屋新六郎 築山を造る	45	1970	大雨で上莊橋 橋脚陥没
文化13	1816	国包村平左衛門 亀之井用水路開削 文政 7年(1824年)用水完成	46	1971	昭和49年(1974年)鉄筋の永久橋に 第5回全国建具展示会で吉田利行 総理大臣賞受賞
天保 4	1833	天保加古川筋大一揆			
嘉永 2	1849	国包川辺実況図が描かれる 上之莊神社 舞台拝殿造営	52	1977	山手中学校 加古川市へ移管
明治 7	1874	国包尋常小学校開校 国包郵便取扱所開設	54	1979	厄神町内会誕生
	22	町村制により国包は上莊村の大字となる	59	1984	三木線、第3セクターに
	33	国包銀行創設	61	1986	上莊地区圃場整備事業完工
	36	上莊尋常小学校、国包尋常小学校設立			国包鉄橋が壊れる、中央部をトラス構造に
大正 2	1913	播州鉄道 加古川国包間営業開始	63	1988	国包郵便局 新局舎(現在)で営業開始
	5	播州鉄道 国包別所間営業開始 ※この時の国包駅は現在の厄神駅			国包公会堂 新築落成
	6	播州鉄道 別所三木間開通	平成元	1989	加古川機動車区 厄神駅北へ移転決まる
	7	加古川改修工事開始 昭和 8年(1933年)竣工			平成11年(1999年)移転完了
	13	上莊村で学校問題(国包分校)から紛議	5	1993	加古川大堰完成式
	14	国包尋常小学校を上莊尋常小学校に統合 国包分校設置			美嚢川の亀の井頭首工事完成
昭和 3	1928	上莊橋架替工事成る	7	1995	東播用水完成
	22	組合立山手中学校設置			阪神・淡路大震災
	25	加古川市誕生	8	1996	加古川市立漕艇センター オープン
	28	国包建具協同組合技能者養成所開所式	9	1997	国包保育園廃止
	30	八幡、上莊、平莊村 加古川市に合併 国包船町簡易水道工事竣工			加古川北防災ふれあいセンター オープン
					加古川市文化連盟賞 洋画の藤原向意受賞
					山陽自動車道全線開通
			13	2001	国包簡易水道メーター取り付け
			14	2002	元国包小学校、国包保育園撤去
			20	2006	三木鉄道廃止、代替バスに
			26	2014	東播磨南北道路開通

(参考) 元文2年(1737年)国包村明細帳当時の人口



嘉永時代の国包川辺実況図

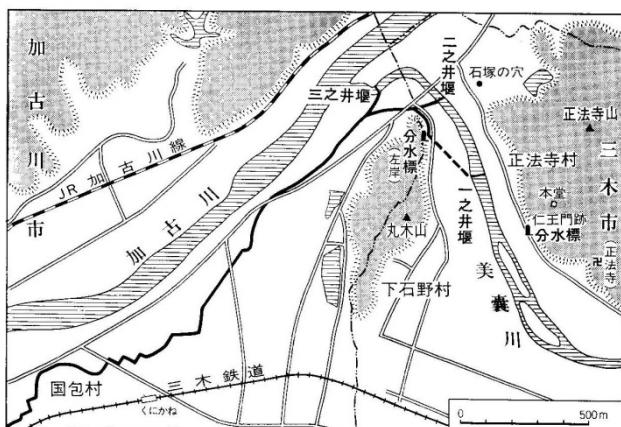
亀之井用水開削事業 事業開始200周年
畠地を水田に、そして新田開発



加古川市史 第五巻 p344 一部分

村絵図 (文化8年、1811年)

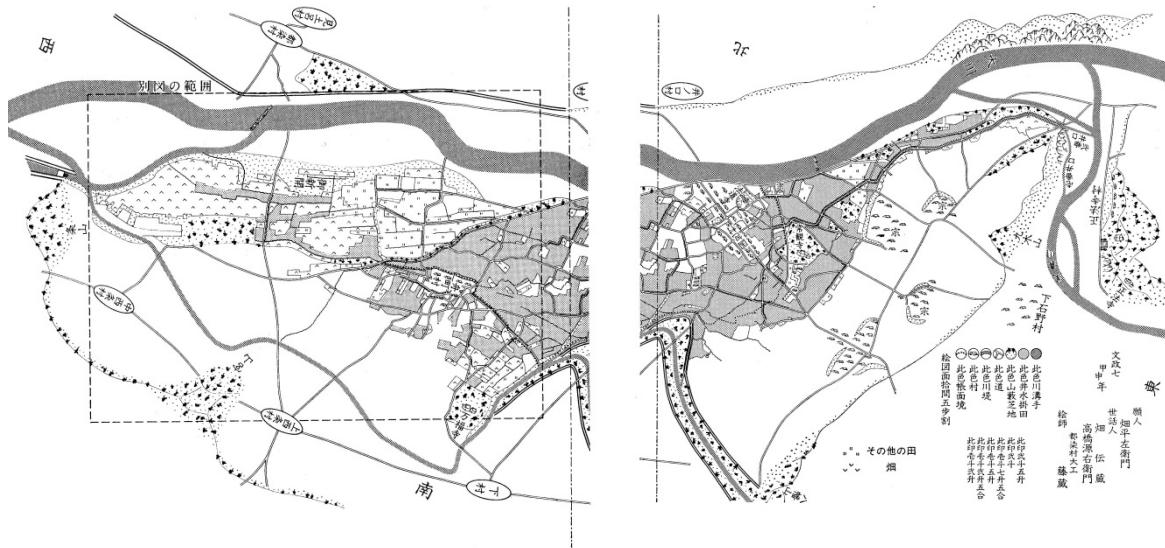
亀之井 開削工事直前の図である
国包から美嚢川 (三木川) への道は記されていない。国包から左方向に伸びる高砂道は現在の国包踏切から厄神駅前を通る道に近い。川沿いは林となっていたようだ。亀之井用水が出来た時には、用水は川原を悠然と流れていたものと推察される。



加古川市史 第二巻 p634

亀之井の図

現在の地図の上に完成時の亀之井用水の流路を重ね合わせてある。現在は美嚢川からの用水は一旦堤防をくぐって加古川河川敷に入り、その後再度堤防をくぐって国包の町に流れ込む。河川敷では、大崎稻荷神社前を用水が水をたたえて流れしていく。耕地整理により流路も多少変化している。



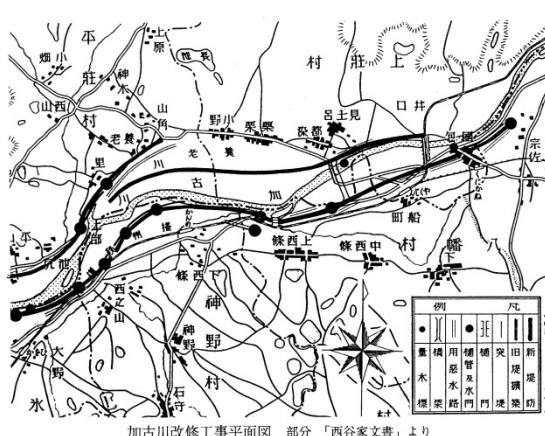
加古川市史 第五卷 p325-327

国包村絵図 (文政 7 年、1824 年)

亀之井用水が完成した年の絵図である。国包の石高（1石は米2.5俵、約150kg）は用水完成前の元禄15年（1702年）の310石より用水完成後の天保5年（1834年）には535石と73%の伸びを示した。畠地が水田に転換できたこと、新田開発（高砂道の川寄り）が進んだことがその理由である。新田は左上図の部分、その詳細が左図（別図）である。

河川改修

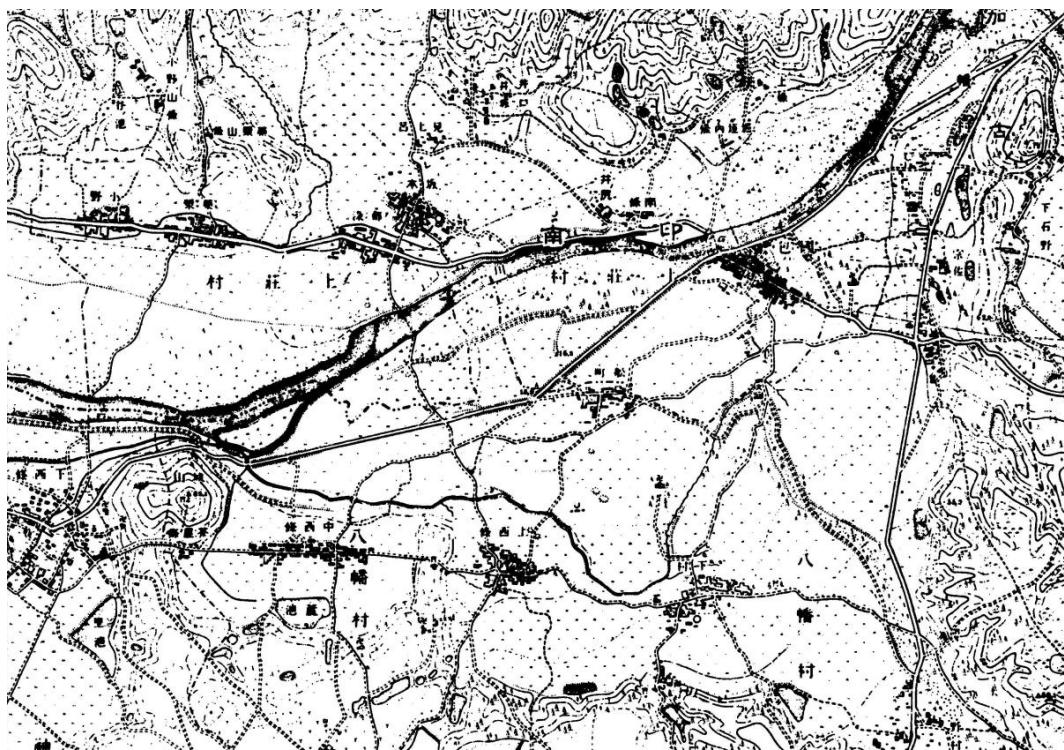
以降、国包では洪水は起こっていない、



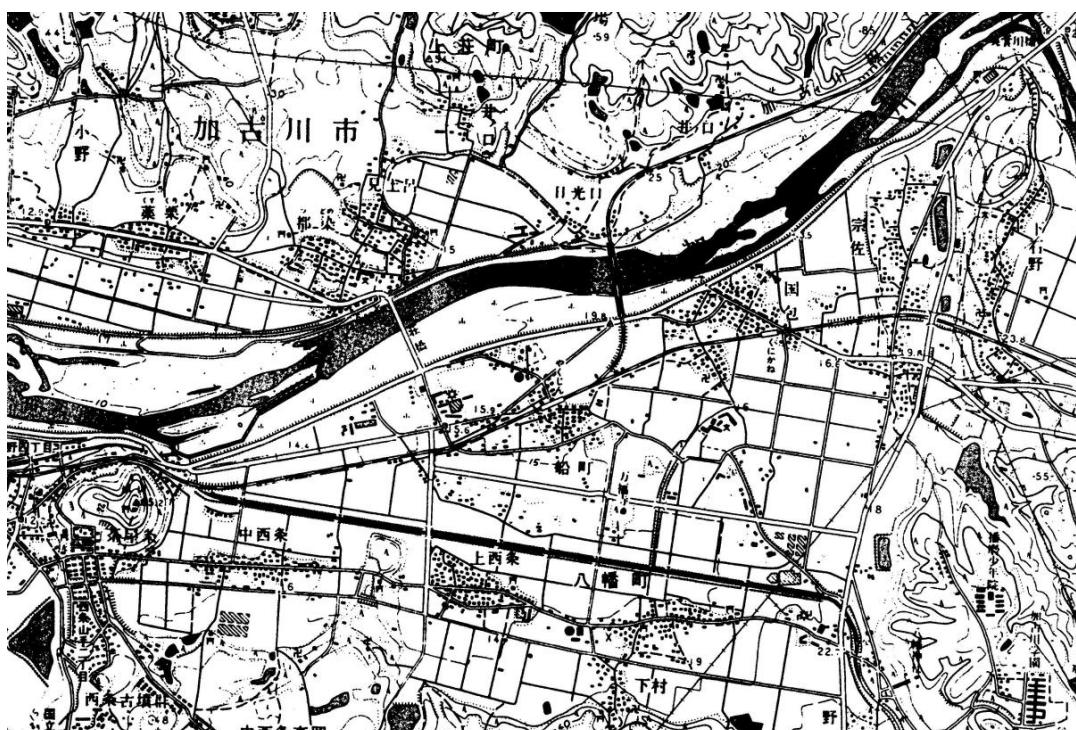
加古のながれ (加古川市史余話) p229

加古川河川改修工事

大正7年（1918年）から昭和8年（1933年）の工事で加古川堤防が付け替えられた。国包鉄橋から上荘橋にかけては従来の堤防（国包鉄橋～厄神駅前）よりも川寄りに新堤防が設けられ、国包町並近くでは川幅を広げるために、町の一部が切り取られた。この工事により、今の河川敷にあった墓地は厄神に移り、国包町並にあった宿屋、化粧品店など10軒が移転した。

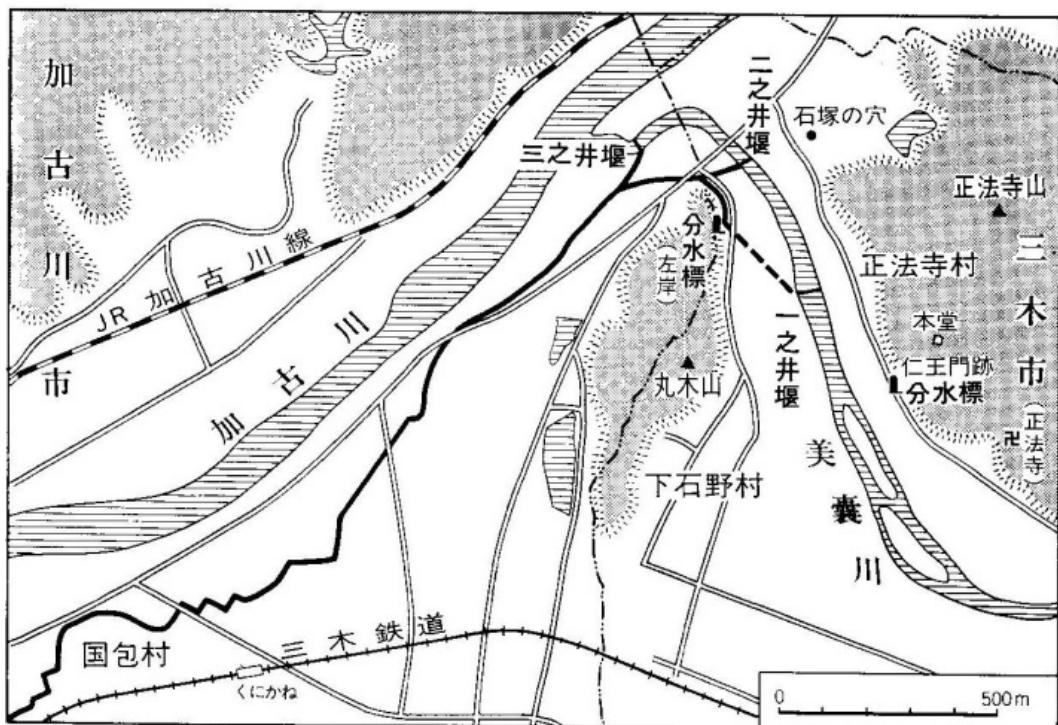
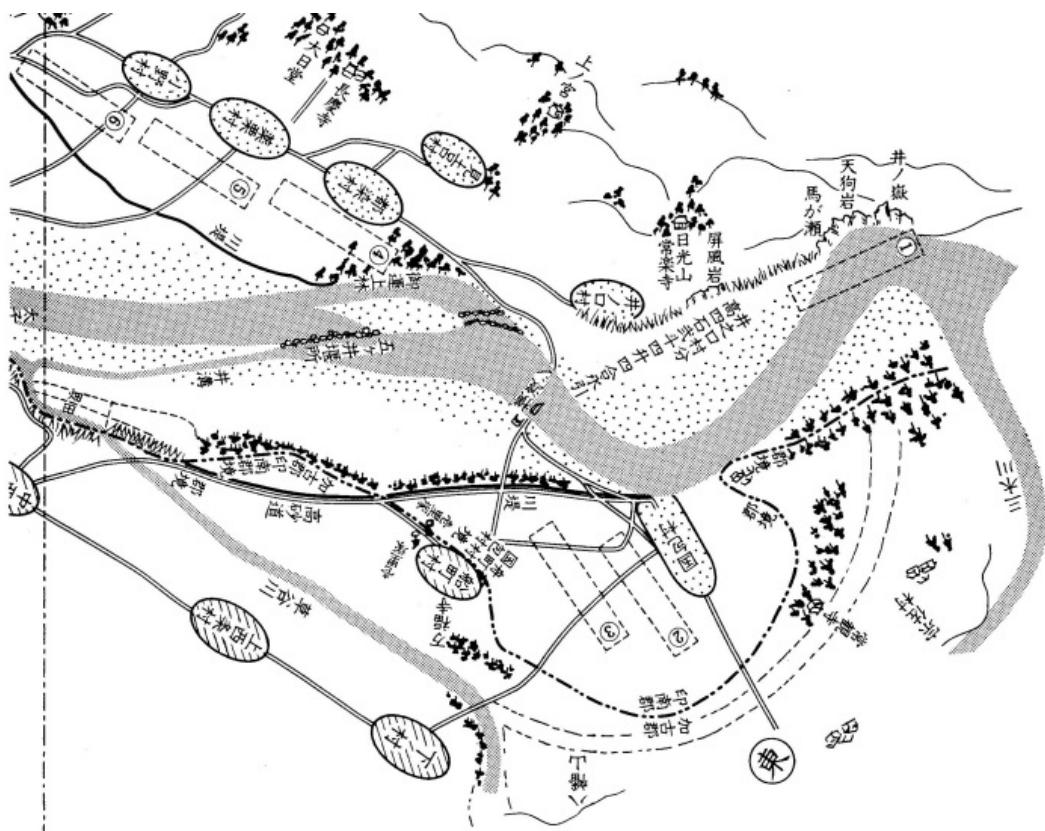


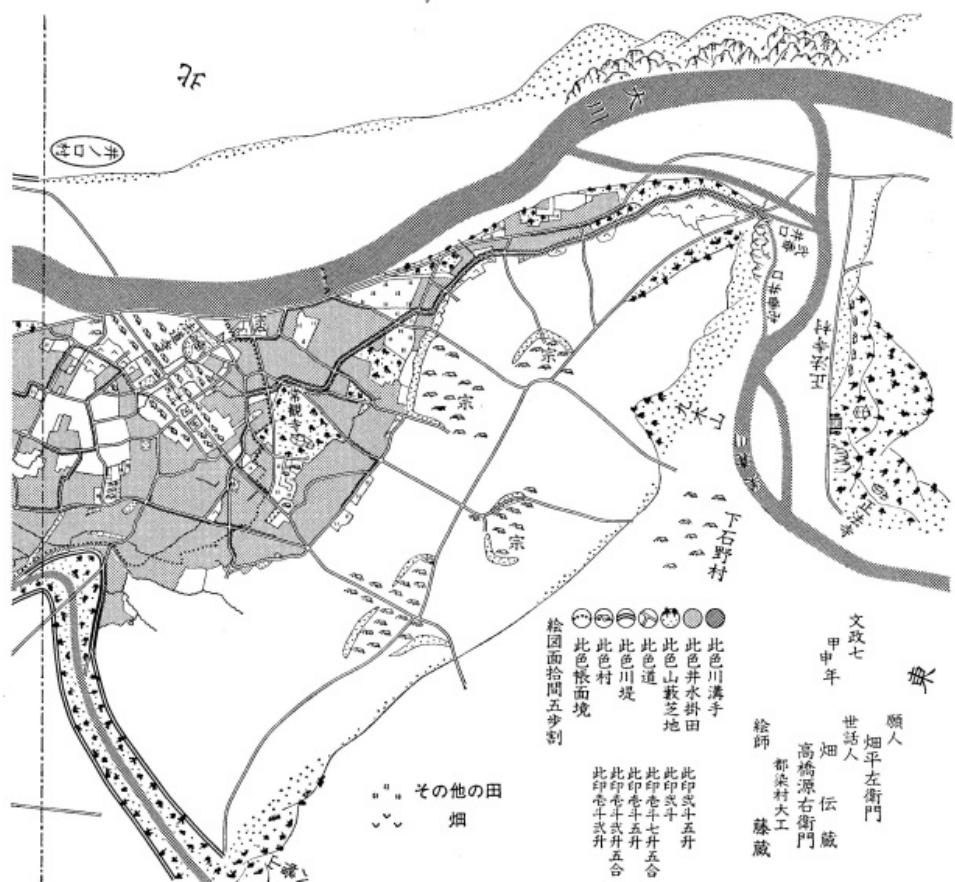
国包付近の地図 明治16年（1883年）

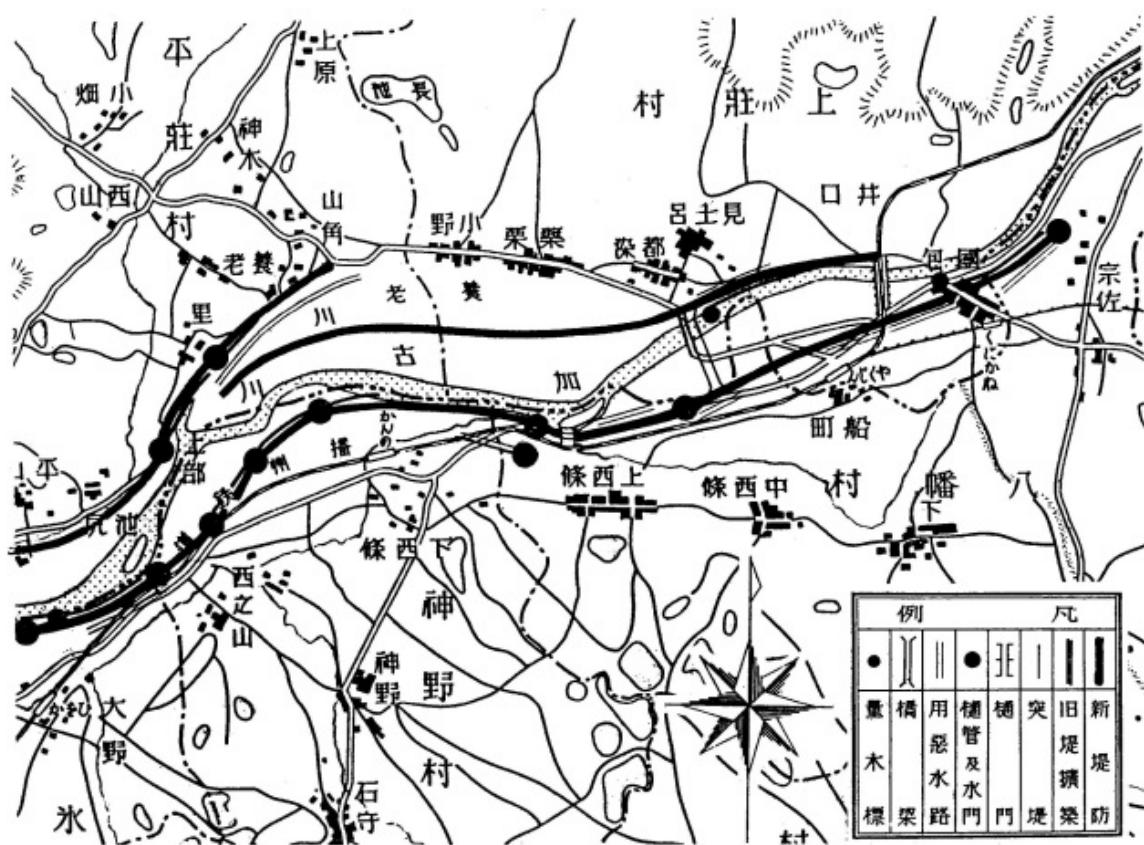
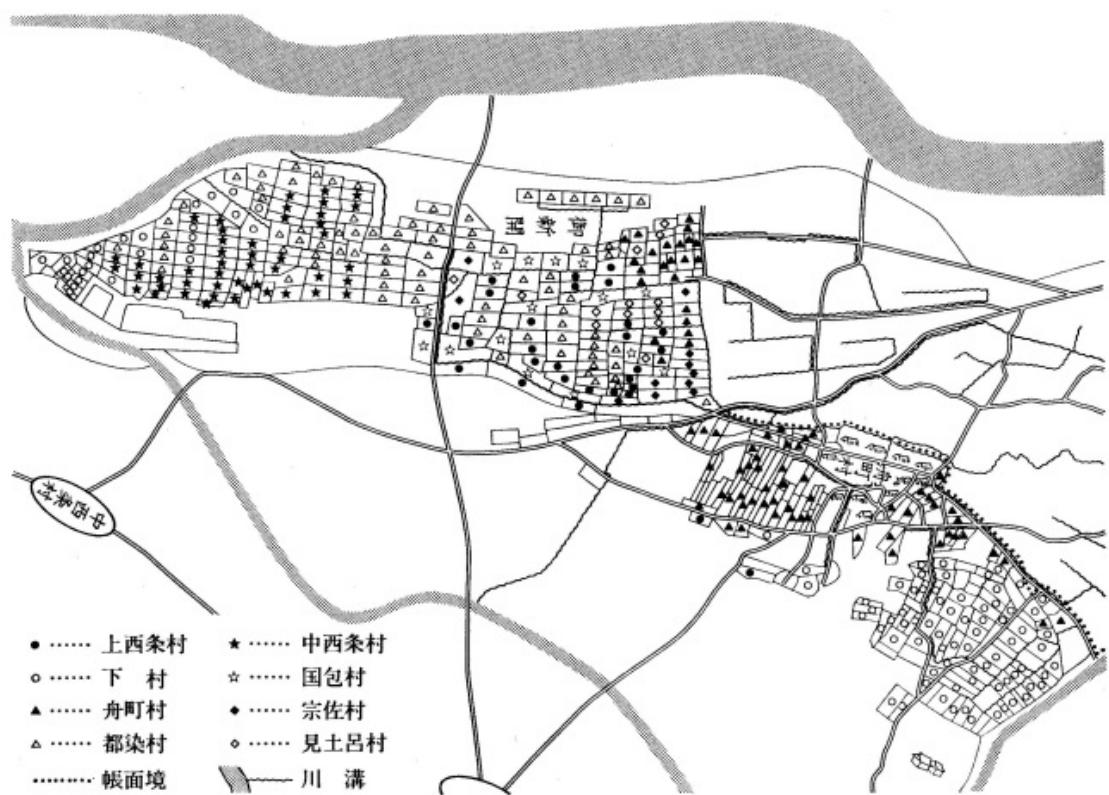


国包付近の地図 昭和55年（1980年）

(使用地図の拡大版)







加古川改修工事平面図 部分「西谷家文書」より

加古のながれ（加古川市史余話） 「加古川市史」付録

加古川市史編さん室、1997年11月20日発行

